

# 破砕値による残留モルタル塊および混入モルタルの量を考慮

## した再生粗骨材の品質管理方法

高橋 祐一<sup>1)</sup>, 竹内 博幸<sup>1)</sup>

### Quality Control Considering Residual Lumps of Mortar and Mixed Mortar with Crushing Value in Recycled Aggregate

Yuichi Takahashi<sup>1)</sup> and Hiroyuki Takeuchi<sup>1)</sup>

#### ■ 要 旨 ■

再生粗骨材を用いたコンクリートの圧縮強度や長さ変化により示される性能に影響を及ぼす残留モルタル塊や混入モルタルの量を製造工程中に管理する方法として、破砕試験による破砕値に着目し、4つの工場で製造した再生粗骨材を対象に試験を行った。その結果、得られた破砕値とモルタル塊残留率およびモルタル混入率は、良好な相関を示すことを確認した。本報では、良質な再生粗骨材Mの管理方法として、モルタル塊残留率およびモルタル混入率、また、混入モルタル分担吸水率および絶乾密度を品質管理項目とした場合の破砕値の基準値の設定方法の提案と、この方法で設定した基準値の妥当性を検証した。さらに、破砕値の基準を満足した再生粗骨材を用いたコンクリートの圧縮強度および長さ変化試験結果について報告する。

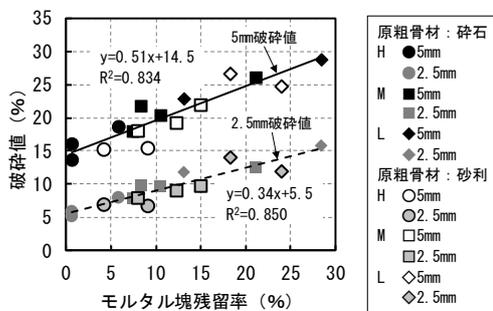


図-1 モルタル塊残留率と破砕値の関係

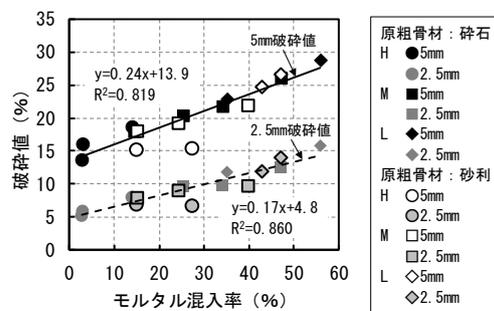


図-2 モルタル混入率と破砕値の関係

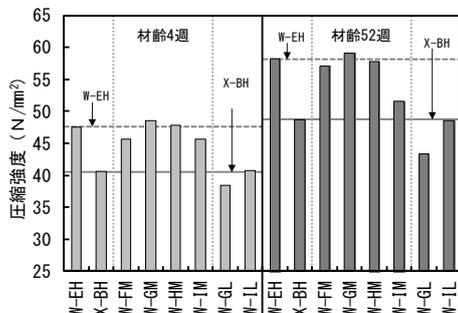


図-14 圧縮強度試験結果(材齢4・52週)

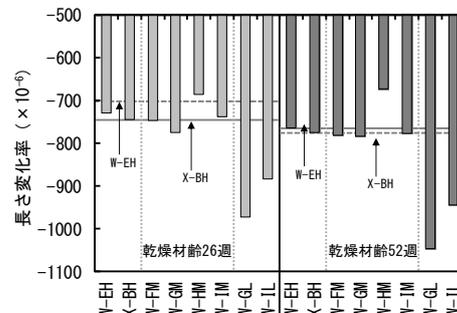


図-15 長さ変化試験結果(乾燥材齢26・52週)

1) 技術研究所 建築技術開発部